



発達障がいをもっと理解してほしい！

ヒューマンセミナーを開催

7月23日（火）令和6年度第1回ヒューマンセミナーを開催しました。

今回、講師にお迎えしたのは社会福祉士で神戸市発達障害ピアカウンセラーの笹森理絵さんです。自らも発達障がいと診断され、また、さまざまな発達特性を持つ三人の息子さんのお母さんでもあります。「基礎からより深くまで、発達障がいの理解と支援を学び」～診断ありの私十息子3人の元気で楽しい生活から～をテーマに、普段の生活、子育てを通じて感じたこと、気づいたことなど自身の体験をベースに発達障がいについてお話しいただきました。

発達障がいは大きくLD（学習障害）、ASD（自閉スペクトラム症）、ADHD（注意欠如・多動症）に分類され特性の出方や程度は千人千様、人によって様々で支援の仕方も異なります。例えば自閉スペクトラム症はストライクゾーンがとても狭く、ストライクゾーンに入らなければ不安になる。ストライクゾーンに入れば安心、納得

できる。このようなことからコミュニケーションをとり情報交換が必要とのことです。

また注意集中のコントロールがうまく

いかない、がんばろうとしてもできない人（ADHD）に対しては『あんなが悪い』は禁句で、けなさないで『ああ』よりも、『こう』の方がいいのでは？』とアドバイスをするのがよい。子どもには失敗する権利がある。失敗の次にどうするかが大事である。

気持ちを言語化できないため、自分の気持ちかわからない。自分の気持ちかわかるようになることが第一。本人、家族だけで抱え込まず「つなぐ」ことが発達障がいに大切である。笹森さんの言葉が一つずつ心に残ります。

また、ご自身の幼稚園の頃の連絡帳に記されたメッセージを元に幼少期のころの発達障がいについて話され、言葉かけや寄り添う気持ちが大切であることを話されました。

参加者は笹森さんの一言一句にうな



笹森理絵さん

ずきながらメモを取り、最後まで熱心に耳を傾けておられました。

【参加者の声】

○発達障がいのことを知っていると聞いても忘れていたことや「あ、そうだったんだ」と改めて気づかされることもあり、とても学び深い時間となりました。

○発達障がいとは知らずに接して自分の配慮不足だったと後から後悔することや、発達障がいのお子さんとうき合う中で、保護者さんたちにどうい言葉で伝えることがいいのか。実際困ることや視点の違いを教えてください。今後のヒントとなりました。

○子どもの自尊心が守られるような声掛けを大切にしたいと思いました。

○「自分の気持ちかわからないのに人の気持ちかわかるのは難しい」という言葉がとても印象的でした。

○常に自分自身を振り返りながら考えることが大切だと学びました。



開催風景

○まっすぐな言葉でお話しいただき、共感したり考えさせられることが多くありました。考えるだけでなく「行動に移す」ことを積み重ねられるように心がけたいと思いました。

京都千本地域のまちづくり

フィールドワークを実施

10月4日(金)に今年度のフィールドワークを実施しました。当日は雨予報でしたが、ほとんど雨に遭遇することもなく予定通りに学習することができました。

今年度フィールドワークで訪れたのは、京都市人権資料展示施設「ツラッテイ千本」で、千本地域の歴史やまちづくりなどを通して同和問題や人権について学ぶことができる施設です。



水平社創立の中心的人物であり、全国水平社初代委員長の南梅吉さんの自宅があった京都千本地域は、かつての蓮台野村に連なる同和地区であり、厳しい部落差別にさらされていた地域でした。その地域で過去145年にわたって同和教育や人権教育を実践してきた元楽只(ら)く(こ)小学校跡(し)令和3年、同施設が移転開設されました。

研修では、佛教学大学教授でNPO法人くらしネット21理事長の後藤直さんから楽只小学校における人権教育や差別や身分社会を打ち破っていく強い心を育む千本の教育について学び、また生活環境改善の

ための住人主体のまちづくり「千本ふるさと共生自治運営委員会(じゆうん)」による取組み、「共生・永住・自治」をテーマとしたまちづくりについて展示してある街並み模型を前に説明を受けました。その後、屋外に出て、まちづくりワークショップで出た課題や意見を行政と共有し、住人の意見が反映された魅力的な住宅や街並みを見学しました。

千本地域における様々な取り組みは、人権協会においてもとても勉強になり、今後の活動に生かしていきたいと思えます。



人権に関するお話

『障がいのある人の人権』について 〜パリパラリンピックから〜

① はじめに

今年、パリで障がいのある人々が集い、パラリンピックが開催されました。日本のアスリートたちの活躍で、金14、銀10、銅17、合

計41個のメダルを獲得しました。

誰もが本来持っている個性や能力や可能性を最大限に生かすために私たちに何が出来るのか、この人権「コーナ」を通じて、障がいのある人の「人権」を考えてみませんか？

②パラリンピックはいつ、どんな風に始まったのでしょうか？

○1944年イギリスのルードウィッチ・グッドマン卿がストーク・マンデビル病院で、戦争で脊髄を損傷した兵士たちのリハビリにスポーツを取り入れました。

○1948年オリンピック・ロンドン大会と時を同じくして、車いす患者によるアーチェリー大会を開催しました。これが、パラリンピックの原点と言われています。



○1960年ローマ大会で開催された国際ストーク・マンデビル車いす競技大会は、後に国際オリンピック委員会(IOC)によって「第一回パラリンピック」と認定されました。

○1964年東京大会において日本での愛称として「パラリンピック」と名付けられました。

○1985年国際オリンピック委員会(IOC)が、オリンピック年に開催する国際身体障がい者大会を「Paralympic(パリンピック)」と名乗ることに同意しました。

③パラリンピックのシンボルマークにも意味があります

○赤・青・緑の曲線で描かれたパラリンピックシンボルマークは「スリー・アギトス」と呼ばれ、ラテン語で「私は動く」という意味で「常に前進しあきらめない」ことを表しています。



④パラリンピックならではのスポーツ

○ボッチャ (Boccia)

重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度障がい者のために、ヨーロッパで考案された球技。ジャックボールという目標となる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかにジャックに近づけるかを競います。

○5人制サッカー (フラインドサッカー)

視覚に障がいのある選手がプレーできるように考案された5人制サッカー。転がると音の出るボールを使うことにより、ボールの位置が分かる。攻める「ゴールの裏には、ガイド(コーラー)が立ち、ゴールの位置や方向、距離などを伝える。

○シッティングバレーボール

戦争などによって体が不自由になってしまった人々により、オランダで考案されたス

ポーツ。プレーは床に臀部の一部が常についたまま行い、サーブ、ブロック、アタックなどで立ち上がったたり、飛び跳ねたりすると反則になる。

※その他に車いすテニスや車いすラグビーなどがあります。パリ大会では、22競技549種目で自分の限界に挑戦しました。

※パリ大会において車いすテニスでシングルスとダブルスの両方で念願の金メダルを獲得された上地結衣さんのお話です。『好きなことだから、つらいと思ったことはありません。車いすテニスをきっかけに夢や希望を持つことができました。』

⑤こんな場面に出会ったら、あなたはどうしますか？ (次の質問に正解はありません)

○道の段差を超えられず困っている車いすに乗ったひとがいます。

○エレベーターに乗ろうとしたら、隣に車いすに乗った人がいます。皆見ぬふりをしてどんだん乗り込んでいくけど、車いすが入るスペースが無いようです。

○視覚障がいの人用誘導ブロックの上に荷物があります。大丈夫でしょうか？

○道で白杖を手にした視



覚障がいの人が、白杖をまっすぐ掲げています。どういたしましょう。(白杖を掲げるポ

ーツは「白杖の SOS」と言っていて、近くに居る人に助けを求めています。)

○電車で緊急の音声の案内があり皆避難していませんが、戸惑っている人がいます。(聞こえないと状況が把握できません)

※障がいのある人があなたの周りに沢山居られます。障がいがあっても、なくても皆、同じ幸せになる権利があります。誰もが生きやすい地域社会を構築したいですね。

お知らせ

☆人権教育啓発作品展

日時 11月30日(土)～12月6日(金)
午前10時～午後4時
場所 摂津市コミュニティプラザ3階
内容 小中学校・関係機関が人権をテーマに制作した作品の展示

☆摂津市人権を考える市民のつどい

日時 12月7日(土) 午後1時30分～
場所 摂津市民文化ホール
内容 人権協会も参画する世界人権宣言摂津連絡会議が主催。権宣言摂津連絡会議による認知症を人権からとらえた講演会とジャズ(JAZZ)の演奏会。



校区活動報告

人権協会では、地域での活動を効果的に進めていくため各中学校区に校区推進委員会を設置し、地域に密着した啓発活動を推進しています。

◎一中校区

6月30日(日)午後、安威川公民館講座室において同館との共催で「多文化共生って、なに?」をテーマに人権研修を開催しました。～まずはお隣の国・韓国のことを知ることから始めよう!～ということで、講師に摂津市社会人講師の



姜 富媛(カン ブウォン)さんをお招きし、韓国のことをクイズ、言語、歌などを含めてわかりやすくお話しいただきました。最後に韓国のすごろく遊び(ウンリノ)を参加者みんなで体験しました。楽しく学習でき、大変有意義な研修会となりました。

◎二中校区

7月20日(土)、新鳥飼公民館との共催で、同公民館において、天道清貴氏を演者とし62名の参加を得て、校区人権講演会「元気いっぱいマッスルコンサート」を開催しました。

旅するマッスルシンガーとして全国をキャンピングカーで巡り、ふれあいを大切に、歌で元気を届ける天道氏の、感謝や愛をテーマとした心温まる楽曲で癒されました。また鳥飼北小の児童も10名ほど参加していただき、その時習った手話で楽曲を披露してくれました。人権講演会で、こどもたちが参加してくれることはあまりないので、とてもうれしい演奏で、重ねて心を癒され、良い一日を過ごしました。

◎五中校区

7月27日(土)午後、鳥飼東公民館との共催で「落語を楽しむ人権のつどい」悲劇を喜劇に代えて!」を同館で開催しました。今回ご出演いただいたのは、



和芸 澄川流一門 家元 澄川白舟さんと高座ソングライターの下新庄つよしさんです。

まず白舟師匠から自身の出自から父の家庭内暴力など幼少期の壮絶な家庭環境等について赤裸々に



に話されました。自分を育ててくれた母への感謝、自分が存在するのは親のおかげ。親が憎けりゃ自分の存在の感謝の恩を他に返せばいい。恩送り。感謝の気持ちを他に伝える。身近なところから優しい気持ちで人に接することで人から人に伝わっていく。優しい心で日々生きることが大切だと話されました。

続いては、今度CDデビュー予定の下新庄つよしさんがギター片手に小咄ソングとオリジナル曲を披露。そして最後は師匠の落語で締め。演目は大坂の発展、人々の生活に大いに貢献した木津勘助(1587～1696)を題材にした「木津の勘助」。解説不要、一度聞いてみてください。



◎今後の校区活動予定

日程等については校区推進委員会を通じて地域の方にお知らせします。

人権なんでも相談(電話・面接)

☎06-6383-1011

◆日時 毎週月曜日～金曜日

(祝日・年末年始を除く)

午前10時～午後4時

◆場所 摂津市役所4階 人権女性政策課